

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：43925

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K13130

研究課題名（和文）一時預かり保育における保育者の実践的知識に関する研究

研究課題名（英文）A Practical Knowledge of Childcare Teachers in Charge of Temporary Childcare

研究代表者

加藤 望（Kato, Nozomi）

愛知みずほ短期大学・その他部局等・准教授（移行）

研究者番号：60734473

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：一時預かり事業において保育者は、子どもとの連続性が保障されていないかわりの中から、特有の知識を形成し子どもの保育を担っている。例えば、保育者は子どもにとって馴染み深い家庭文化と、馴染みのない保育所文化の間にはギャップがあることを意識し、そのギャップを段階的に捉えて埋めていくことを意識しながら保育を担っている。子どもに負担のない範囲でスキンシップを意識したり、個別にかかわったりするというような人的環境だけでなく、子どもにとって馴染みのある物的環境を緩衝材として利用する。また、同年齢の子ども同士のかかわりを楽しいと感じられるよう、あえてみんなで一緒に行う活動を取り入れている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育者の実践知に関する従来の研究では、通常のクラス担当保育者を研究の対象としており、保育士資格を取得している保育者が、その他の多様な保育形態でどのような実践知を發揮しているのかは未解明であった。本研究の知見により明らかとなった、一時預かり事業を担う保育者が資格や経験を生かして実践知を積み重ねていく様相や、日々の葛藤から形成した実践知は、これから一時預かり事業を担う保育者にとっての指標となり、自己の保育を振り返る際の視点にもなり得る。また、本研究の結果を社会へ発信することにより、一時預かり事業の特性とそれを担う保育者の高度な専門性を明示できる。

研究成果の概要（英文）：Childcare teachers who are employed by the temporary childcare system amass a set of specific knowledge in a situation where continuous relationships with the children are not guaranteed. For example, childcare teachers are aware that there is a gap for children between the familiar home culture and the unfamiliar nursery culture, and they see this gap as having stages. They take charge of childcare with an awareness of bridging this gap. They use not only the human environment, such as being aware of the close contact and children's individual involvement to the extent that it is not burdensome to the child, but also the physical environment that is familiar to the child as a buffer. In addition, they are challenged to incorporate activities that are done together into their curricula, so that children of the same age can enjoy being involved with each other.

研究分野：幼児教育学，保育学

キーワード：緩衝材としての物的環境 負担感に配慮した人的環境 家庭文化と保育所文化のギャップ 段階的ギャップ埋めの実践知

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 一時預かり事業をめぐる現状

我が国は少子化社会であり、その原因の1つに子育てに対する保護者の心理的・身体的な負担感がある(厚生労働省, 1999)。そのため、こうした負担感を緩和・除去すべく、リフレッシュを目的とした一時預かり事業を実施している。

一時預かり事業を利用した経験のある保護者は、意欲や積極性が増し、成長・発達が促進された等の、子どもに肯定的な変化があったと感じている(松岡・櫻谷, 2004)。しかし一方で、「子どもがかわいそう」「周りから自分勝手だと思われないか」という葛藤が親に生じていること(松岡・櫻谷, 2004)や、リフレッシュ目的での一時預かり事業の利用に、疑問を抱く保育者もいることが報告されている(上田・鳥光, 2000)。

### (2) 一時預かり事業の課題

一時預かり保育を利用する子どもは、日常的な保育所保育を利用しておらず、保育環境に不慣れである。また、保護者の急な都合によって生活環境が変わり、家庭環境が不安定な場合もある。このような子どもの姿が、保護者には一時預かり事業の「利用しづらさ」を、保育者には「保育しづらさや、利用に際しての疑問」を抱かせていると推察される。一時預かり事業で行われる保育は、一般的な保育所保育とは異なり、長期的な見通しを立てづらい。そのため保育者にとっても、日頃からの関係性がない、もしくは関係性の薄い子どもの保育をおこなうことは、特有の状況である。

子どもの不安定な情緒は保育者の情動にも影響を及ぼし、同じ保育室で過ごす他の子どもたちにも影響を及ぼす(Tamara, 2017)。このように、子どもの不安定な情緒が渦巻きやすい一時預かり事業では、ポジティブな感情を維持しようとする保育者の態度にも多大な負担がかかるだろう。こういった特有の状況でおこなわれる一時預かり事業では、通常の保育所保育とは異なる専門性が必要ではないだろうか。

## 2. 研究の目的

### (1) 一時預かり事業を担う保育者の実践的知識を明らかにする

本研究では、一時預かり事業を担う保育者(以下、一時預かり担当保育者)の専門性である実践的知識を明らかにする。実践的知識とは、実践において機能している知識のことであるが、これは必ずしも他者へ伝達可能な知識ではなく、カンやコツというように言語化や概念化が困難な知識である(佐藤, 2015)。特に保育の場合は学校教育と異なり、保育者の関わり方や遊びの中から子どもが何を学んだのかが「見えにくい」。本研究では、そうした「見えにくい」保育者の実践的知識を「見える」形で抽出する。

### (2) 一時預かり事業の質の向上に寄与する

本研究のもう一つの目的は、一時預かり担当保育者の実践的知識を明らかにすることにより、一時預かり事業の重要性と有用性を世間一般に認識してもらう機会とすることである。これにより、歴史が浅く、模索しながら保育をおこなっている一時預かり担当保育者への、実践的な示唆となることや、一時預かり事業を利用する保護者へ、安心感を提供することができる。

## 3. 研究の方法

本研究では、多声的ビジュアルエスノグラフィー(multivocal visual ethnography)(Tobin, 1988; Tobin et al., 1989)に依拠し、研究協力者に映像を視聴してもらいながら、フォーカス・グループ・インタビュー(Focus Group Interview: 以下、FGI)を実施する。この研究方法では、視聴した映像内容をきっかけとして、自己や他者の保育を意識的に振り返り、保育者の行為にある背景を炙り出す。また、保育の意図を説明することにより、実践的知識の言語化を促すことができる。

### (1) 動画撮影と映像の編集方法

A 県内の認可保育所 4 園( Table1 参照)にて、一時預かり事業をおこなう保育室に研究者 1 名(筆者)が入室し、3 台のカメラを用いて撮影を行った。撮影期間は 2018 年 5 月~12 月で、撮影日数は 1 園につき 3 日~4 日である。撮影時間は子どもと保育者の負担にならないよう、午前中の活動を中心に 1 日あたり 3 時間以内に止め、一時預かり担当保育者と子どもがかかわる様子を撮影した。撮影した動画は、後日、各園での一時預かり事業の日常が伝わるよう、朝の受け入れや午前中の遊び、給食や午睡といった場面について、FGI での使用に適した長さを考慮し、1 園 15 分程度になるよう編集した。

特徴的な場面として、A 園と C 園では、保育者が子どもを集めて絵本を読んだり、体操をしたりといった一斉活動の場面がある。A 園では芝生のある広い園庭で、在園児と一緒に色水遊びを楽しむ姿が映っている。B 園と D 園では登園してから給食までを、基本的に子どもたちは各々で好きな遊びをする。B、C、D 園では、泣いている子どもに保育者がかかわる姿があり、B 園では、

保護者から預かった抱っこ紐を保育者が装着して子どもを抱く。C園では保護者から借りたバスタオルを保育者と子どもの間に挟んで抱っこする、室内でベビーカーを利用する場面がある。さらにB、D園では給食時にも子どもが泣く姿が収められており、B園では食事の介助の途中で、保育者が交代する場面がある。

Table1 . 研究協力保育施設の概要

保育施設名	一時預かり事業の形態	担当保育者数	1日あたり利用するおおよその子どもの数
A園	通常のクラスに同室	2名	10人前後
B園	専用保育室	3名	12人前後
C園	専用保育室	6~7名	15人前後
D園	専用保育室	3名	10人前後

## (2)フォーカス・グループ・インタビューの実施

FGIでは、編集した映像をインタビューのきっかけとしながら、撮影協力を得た一時預かり担当保育者だけでなく、他保育施設の一時預かり担当保育者やクラス担当保育者にも協力を得て、保育施設ごとに話を聴いた。FGIに協力を得た保育施設(動画撮影協力園含む)は、異なる7つの自治体(市町村)に所在する全12カ所である。研究協力者は、一時預かり事業もしくは乳児(0~3歳未満児)保育の担当経験がある保育者計39名である。

実施期間は2019年8月~2020年9月で、各保育施設につき1時間30分~2時間を数日に分け実施した。なお、2020年度はMicrosoft社オンライン会議システムTeamsを利用した。FGIでは、語り合いやすい間柄の保育者を選んで参加してもらい、映像を視聴してもらった。インタビュー(著者)は適宜、映像を止め、「この場面についてどう思いますか?」「あなたがこの保育者ならどうしますか?」といったようにオープンエンドな質問を行った。

手順として、まず映像の内容確認を兼ね、撮影協力を得た4園にてFGIを実施した。次に、この4園以外の保育施設に勤務する一時預かり担当保育者やクラス担当保育者に話を聴いた。多種多様な保育施設に勤務する保育者たちから話を聴くことにより、同じ映像を視聴しても多角的な視点から異なる語りを得られる。

## (3)倫理的配慮

調査に先立ち、所属研究機関の倫理審査を受けた。また、研究協力者へは研究の目的を事前に説明し、途中辞退もできることを伝え、同意を得た。撮影については施設長、保育者と一時預かり事業を利用する保護者からも同意を得た。

## (4)分析方法

得られたデータはSteps for Coding and Theorization(以下、SCAT)(大谷,2008;2011;2018)を使用して分析した。SCATは、言語記録を深く読み込んで潜在的な意味を見出し、それを表すような新たな概念を案出する質的データ分析法である。本研究で取り扱うデータは膨大な言語記録だが、SCATであればデータ全体を見ながら最後まで分析を行えることや、分析過程が明示的なことから、定式化された手続きが可能である。

## 4. 研究成果

以下、本研究で案出されたテーマ・構成概念に基づいて、一時預かり担当保育者の実践的知識を示す。なお、(太字)は案出されたテーマ・構成概念を示す。

### (1)家庭文化と保育所文化のギャップを段階的に埋めるための実践的知識

一時預かり事業は、日々、子どもの顔ぶれが異なる保育環境であり(日常的新入園がもたらす**無秩序**)、子ども同士の育ち合いも困難である(加藤,2019a)。そのため、保育者は子どもの家庭文化と保育所文化の間には**ギャップ**がある(**経験ギャップ**)(**意識ギャップ**)(**発達ギャップ**)ことを理解し、保育を担っている。通所する子どもは、保育施設に在籍している子どもとは様子が異なり、みんなで一緒に何かをするという経験や意識が乏しく(**一時預かり通所児の集合経験の乏しさ**)(**一時預かり通所児の集団行動意識の低さ**)、その楽しさも理解し難い(**一時預かり通所児の面白さ受信力の低さ**)。

### (2)あえてみんなで活動するための実践的知識

一時預かり担当保育者は、通所する子どもたちに、「みんな一緒に楽しい」という気持ちを経験して欲しいという思い(**一時預かりでも育みたい協同性**)があり、あえて子どもたちが一斉に活動する時間を作る(**一斉保育の試行的挑戦**)。この時、一時預かり担当保育者は、通常の保育との異なりを理解した上で、先を見通した保育を計画する(**ギャップ埋めの見通し**)が、その日の子どもの顔ぶれによっては保育者が意図したり期待したりした活動にはならない(**ギャップ埋めの失敗**)。そのため、活動の目的や内容を緩和しながら保育(**みんな一緒に滞在の距離的緩和**)(**静から動への活動転換**)(**ギャップ埋めの方針転換**)を担っている。これにより、一時預かり

担当保育者は、継続したかかわりが保障されていない子どもとのかかわりであっても、日々の保育の中で短期的な見通しをもって保育を担っていることが明らかとなった。

### (3) 人的環境の不足を物的環境で補うための実践的知識

6～12ヶ月の子どもの場合、見知らぬ場所や見知らぬ人に対する不安より、一人で放置される孤独に不安を感じるため、保護者でなくても自分を受け入れてくれる大人がいることで不安を示しにくいという(横浜, 1980)。したがって、子どもと一時預かり担当保育者が1対1での個別的なかわりを行える場合(保育者固定による人的環境ギャップ埋め)(人間のかかわり)、子どもが気に入る物品を利用する(物的代替による人的環境ギャップ埋め)(機械的かかわり)必要はない。つまり、保育者が子どもと個別的なかわりを持つことは、子どもの情緒を安定に導くことへ繋がると考えられる。

しかし、専用保育室での一時預かり事業では、複数名の子どもを受け入れていることから、常に1対1で個別的に子どもとかわることは困難である(個別保育困難な保育者主導一斉保育)。そうした状況でも、一時預かり担当保育者は人的環境を充実させ、子どもと個別的なかわりを保障したいと試行錯誤している。一時預かり専用の保育室で複数名の子どもの保育を担う保育者にとって、人的環境を充実させるための手段は、子どもと一緒に保育室を離れることである(理想的な一時保育室環境(離席可能・必要時個別対応可能な人的環境))。この時、理想的な保育室の配置構造は、手を借りたいときに声を掛けられる場があり、手を貸してくれる保育者の存在である(理想的な乳児保育室環境(事務室近接・必要時個別対応可能な人的環境))。

### (4) 情報の不足を物的環境で補うための実践的知識

非連続的に子どもとかわる場合、保育者に抱かれることを好まない子どもがいる(人とのかわりに困難を示す子ども)。この場合、一時預かり担当保育者自身が、子どもの情緒を安定に導くきっかけにはなれないため、子どもを抱く代わりに(物的環境による安全基地的役割)に室内でベビーカーを使用する(物的代替による人的環境ギャップ埋め)。子どもや保護者と継続的にかわるクラス担当保育者は、大半の子どもが保育者との関係性を良好に構築していくにも関わらず(担任保育者とのかわりを好む子ども(多数派))、中には保育者とのスキンシップを好まない子ども(担任保育者とのかわりに困難を示す子ども(少数派))や、他の子どもとのかかわりを求めない場合があると指摘する。その理由として、子ども自身に軽度の発達障害が認められる場合(人とのかわりに困難を示す子ども)や、それに付随して保護者が子どもとのかかわりに困難を抱えているケース(我が子とのかわりに困難を示す保護者)もあるという。通常のクラス保育であれば、子どもに関する情報は、毎日のかかわりや保護者からの話を手掛かりに、日々、新しくなり深まっていく(更新されることで理解できる子どもの課題)。しかし、一時預かり事業では、子どもとのかかわりが非連続である上、保護者との関係性も深まりにくく(加藤, 2019b)、子どもや保護者を理解することが難しい(更新されないため理解されない保護者の課題)。そのため一時預かり担当保育者は、クラス担当保育者が人(保育者である自分)を介して子どもの情緒を安定に導こうとする(星ら, 2009)のとは異なり、子どもが気に入る物品を用いて間接的にかわることで、関係性を構築しようとする(子ども情緒不安定によるやすらぎ物品の必要性)。

#### <引用文献>

- 星三和子・塩崎美穂・勝間田万喜・大川理香(2009)保育士はゼロ歳児の<泣き>をどうみているか インタビュー調査から乳児保育理論の検討へ . 保育学研究, 47, (2), 49-59.
- 加藤望(2019a)子どもの情緒を安定に導く一時預かり事業担当保育者の実践的知識: リー・ショーマンの「知識基礎」カテゴリーに着目して. 国際幼児教育研究, 26, 11-22.
- 加藤望(2019b)一時預かり事業において保育者に生起する葛藤とその背景. 保育学研究, 57, (3), 8-19.
- 加藤望(2021)一時預かり担当保育者はどのように子どもの情緒を安定に導くのか? 「抱っこ」の判断を巡る専門性に着目して. 質的心理学研究, 20, (1), 32-48.
- 厚生労働省(2015)一時預かり事業実施要綱 . <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/h270717/t11.pdf> (情報取得 2022/6/28)
- 厚生労働省(2018)保育所保育指針解説. フレーベル館. 339-342.
- 楠見孝(2014)ホワイトカラーの熟達を支える実践知の獲得. 組織化学, 48, (2), 6-15.
- 松岡知子・櫻谷真理子(2004)保育所における一時保育を利用した母親の意識調査. 立命館人間科学研究, 7, 13-24.
- 文部科学省・厚生労働省(2017)「一時預かり事業の実施について」の一部改正について [https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/teianbosyu/doc/tb\\_h28fu\\_11mhlw\\_66a.pdf](https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/teianbosyu/doc/tb_h28fu_11mhlw_66a.pdf) . (情報取得 2021/11/11)
- 文部科学省・厚生労働省(2020)「一時預かり事業の実施について」の一部改正について. <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/r020401/ichiji.pdf>

(情報取得 2021/5/13)

- 大谷尚(2008) 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案 着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き .名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 ,54 , 27-44.
- 大谷尚(2011) SCAT: Steps for coding and Theorization 明示の手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法 .感性工学日本感性工学会論文誌 , 10 , 155-160 .
- 大谷尚 (2019) 質的研究の考え方 研究方法論から SCAT による分析まで .名古屋大学出版
- 佐藤学(1995) 専門家として教師を育てる 教師教育改革のグランドデザイン .岩波書店
- Tamala C. ,(2017) Early Childhood Educators' Well-Being: An Updated Review of the Literature . *Early Childhood Education journal* . 45, 583-593 .
- Tobin, J. (1988) Visual anthropology and multivocal ethnography: A dialogical approach to Japanese preschool class size. *Dialectical Anthropology* , 13 , 173-187.
- Tobin, J. , Wu, D. Y. H. , & Davidson, D. H. (1989). *Preschool in Three Cultures: Japan, China, and the United States* . New Haven . Yale University Press.
- 上田敏丈・鳥光美緒子 (2000) 多様化する保育ニーズとクラス運営--H市におけるインタビューから . 広島大学大学院教育学研究科紀要 . 第三部 , 教育人間科学関連領域(49) , 357-365 .
- 横浜恵三子 (1980) 保育場面と実験場面における乳幼児の不安に関する研究 . 教育心理学研究 , 28 , (1) , 28-37 .

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 加藤望	4. 巻 20
2. 論文標題 一時預かり担当保育者はどのように子どもの情緒を安定に導くのか? : 「抱っこ」の判断を巡る専門性に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 質的心理学研究	6. 最初と最後の頁 32-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24525/jaqp.20.1_32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 大道香織・加藤望・権赫虹・中坪 史典	4. 巻 1
2. 論文標題 研究方法論としての多声的ビジュアル・エスノグラフィーの可能性と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要 教育学研究	6. 最初と最後の頁 213-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50202	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 加藤望・中坪史典	4. 巻 42
2. 論文標題 海外の保育・幼児教育分野におけるショーマンのPCK概念をめぐる研究動向 : 日本の保育者研究への援用可能性の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 幼年教育研究年報	6. 最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50043	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 加藤 望	4. 巻 57
2. 論文標題 一時預かり事業において保育者に生起する葛藤とその背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保育学研究	6. 最初と最後の頁 8~19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20617/reccej.57.3_8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤望	4. 巻 26
2. 論文標題 子どもの情緒を安定に導く一時預かり事業担当保育者の実践的知識～リー・ショーマンの「知識基礎」カテゴリーに着目して～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際幼児教育学研究	6. 最初と最後の頁 pp.11-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34567/iaece.26.0_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤 望、中坪 史典	4. 巻 67
2. 論文標題 なぜ日本の乳幼児子育て期の保護者はリフレッシュ目的で一時預かり事業を利用しにくいのか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島大学大学院教育学研究科紀要. 第三部, 教育人間科学関連領域	6. 最初と最後の頁 57～64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/46807	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 加藤望
2. 発表標題 一時預かり担当保育者はどのように子どもを情緒安定に導くのか?～「抱っこ」をめぐる実践的知識～
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤望
2. 発表標題 子どもの情緒を安定に導く一時預かり担当保育者の暗黙知とは何か?
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第30回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤望
2. 発表標題 子どもの情緒を安定に導く一時預かり担当保育者の実践的知識～リー・ショーマンの「知識基礎」カテゴリーに着目して～
3. 学会等名 日本子ども社会学会第26回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nozomi Kato
2. 発表標題 A Study of Teacher ' s Practical Knowledge of Guiding Children ' s Emotional Well-being
3. 学会等名 Pacific Early Childhood Education Research Association ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nozomi Kato
2. 発表標題 A Study on the Contents and Management Approaches to System of Temporary Childcare in Japan
3. 学会等名 28th European Early Childhood Education Research Association
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤望
2. 発表標題 通常の保育から一時預かり担当になった保育者はどんな葛藤を抱えているか
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 加藤望
2. 発表標題 一時預かり事業で生じるノンルーティン保育～保育場面映像の微視的分析～
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nozomi Kato
2. 発表標題 A Study of Teacher ' s Practical Knowledge of Guiding Children ' s Emotional Well-being
3. 学会等名 Pacific Early Childhood Education Research Association ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

愛知みずほ短期大学 教員紹介 <a href="https://www.aichi-mizuho.jp/pdf/p11/11za_kato_nozomi2020.pdf">https://www.aichi-mizuho.jp/pdf/p11/11za_kato_nozomi2020.pdf</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------